

# 中川根ふる里通信

## = 第 17号 =

編集・発行・モアラブ中川根  
 連絡先 〒428-03  
 静岡県榛原郡中川根町上長尾<sup>859-6</sup>  
 ふる里通信係  
 郵便振替口座  
 <名古屋> 7-81556



### 幻想的な山犬段のブナ林

山犬段は静岡の自然100選となっています

# 町長就任のごあいさつ

## 鈴木 久 (田野口)



この度、町長の改選にあたりまして、不肖私が立候補させていただきましたところ、皆様方の温かいご支援のもと、当選させていただきました事は、誠に身に余る光栄に存じます。

無投票当選という結果ではありましたが、決して甘んずる事なく、むしろ厳しくその使命と責任の重大さを思うとき、私は、初心忘れずべからずと、自らを戒め、また、町民の立場に立って、公平・公正な行政の推進をモットーに、誠心誠意全力を傾注いたして参る所存です。

今、我が国は、技術の革新・情報化社会への移行・人口の高齢化・経済環境の変化など、二十一世紀に向けて、大きな流れとなっております。私たちは、こうした変化に立ち遅れることなく、的確に対応し、豊かで、活力にあふれた社会をこの手で築き上げなければなりません。

しかしながら、我が中川根町は、やがて到来する新時代へ向っての町づくりのために、取り組まなければならない問題は、あまりにも多く山積しております。

道路の整備、産業の振興、生活環境の整備、福祉の充実、教育文化の向上、高齢化社会への対応など、いずれも困難な問題ばかりであります。町民一体となり、創意と、熱意をもって取り組まなければなりません。

長年の念願であります、東道二車線道路の全面開通を促進し、国道(二号)までの時間短縮化を図る事により、就労の機会、そして、通勤圏の拡大など、定住環境づくりに結び付けるよう努力いたします所存です。

産業の振興につきましては、高品質で特徴ある川根茶の生産を目指し、効果的PR、消費の拡大に力を注ぎたいと思っております。

林業につきましては、低コスト林業を目指すと共に、労働力の確保、後継者育成などが大きな課題であります。

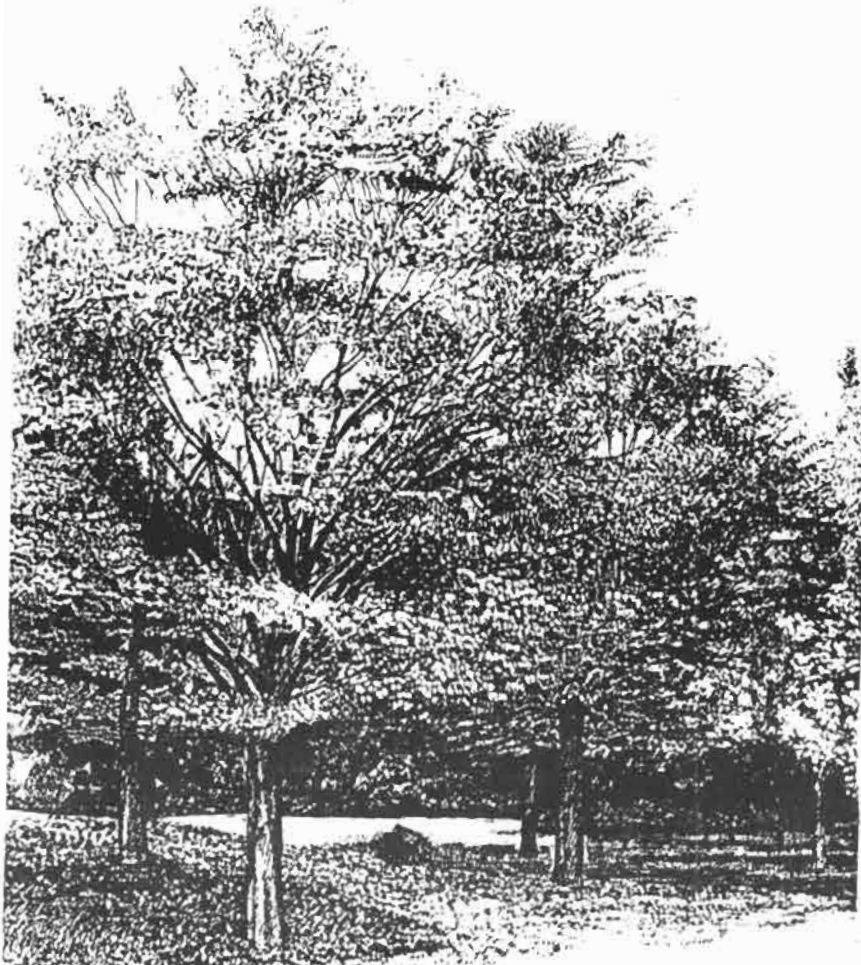
生活環境につきましては、護岸整備、堆積工砂の排除などを、推進しなければなりません。

生活環境につきましては、護岸整備、堆積工砂の排除などを、推進しなければなりません。

今、心の豊かさや、生きがいなど精神的充実が求められております。しかし、文化度における都市部との較差は大きいものがあります。より高い文化に接するチャンスをつくり、若者にたくさん、感動を与えてやりたい。そんな事も私の果したい仕事の一つであります。困難な問題が多いのであります。これ等に対しましても、全くもって浅学非才、経験も浅い私ではあります。町民の皆様の声をよく聞き、知恵を出し合い、手を取り合って、誠心誠意全力を傾注する所存であります。

豊かな自然に恵まれ、豊かな人情あふれる我がふる里中川根の、二十一世紀へ向けて、心にゆとりを持ち、生きがいがあり、心安く暮らせる町づくりのため、最大努力する覚悟であります。

皆様方の御指導、御協力を切にお願い申し上げます。就任のごあいさついたします。



私達の郷土中川根町は、大井川の中流域に位置し、標高は地名付近の二〇〇Mから、当町の北端にそびえる蕎麦粒山の一六〇〇Mにまで達し、その一四〇〇Mに及ぶ高度差がつくり出す気温分布によって、大変数多くの動植物の生息を可能にしています。またまわりは杉や松の植林に囲まれ、民家のまわりの、なだらかな傾斜地には、手入れの行き届いた茶園が広がって、のどかな景観をかたちづかっていますが、また少ないながらも、これらの所々には、カシやコナラなどの雑木林が見られ、淡い春の芽吹きから、照り返す夏の青菜の季節へと四季の移ろいを私達に感じさせてくれます。この中川根の自然について植物や、またそこに生育する昆虫などの特徴を、おりませながら、筆を這わせてみたいと思います。

先程もふれましたが植林された杉や松の林の中であって、地味のやせた谷ぞいや急傾斜地などにみられるこれらの雑木林は、主にスタシイや、アラカシなどのブナ科の樹木から成り立っていて、一般に照葉樹林と呼ばれています。これらの林は、おおむね民家の付近にあつて、昔から木炭の良材として伐り出されたり、シイタケのホダ場に利用されたりして、多くの人の手が加えられてきました。広い範囲ではありませんが、現在も地名や上長尾地区の山林の一部に比較的安定したこれらの照葉樹林を見ることが出来ます。



林の中を観察してみますと、この林の優占種であるスタシイやアラカシの幼樹と一緒にサカキやヒサカキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなどの常緑樹や、ネジキリ、ヨウブ、エゴノキといった広葉樹などによって、低木層がかたちづくられていることがわかります。



# 中川根町の自然環境について

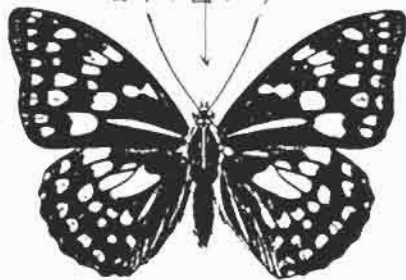
大井川最下流部の相良、御前崎などの海洋性気候の影響を強く受けている照葉樹林内の低木層は、タイムシン、タチバナやネズミモチ、ヤマモモ、カクレミノなど、中川根とは全く異なった常緑樹によって構成されていて、この二つのタイプの林の中に立つてみると、たった二〇〇Mの標高の違いによって、これ程明確に植物の分布というものが変わってしまっているのが驚かされてしまいます。

また大井川に目を転じてみると、今では河辺の整備も進んで、以前よく見られたヤナギ林や、グミ林は、その規模もすいぶん小形化され、所々に昔のなごりをとどめているに過ぎませんが、それでも夏休みとなりまして、カフトムシなどを追い求めて、はしゃぎまわっている子供達の姿を見る事が出来ます。数少なくはなつたこのヤナギ(ゴゴメヤナギ)の林を訪ねてみると、樹液の出ているヤナギの枝には、あの恐ろしい形相をしたスズメバチや受敬者のカナブンに混じって、モンシロチョウより少し大型で羽の表面が紫色に輝く美しい蝶が見つかると思えます。この蝶には、コムラサキというしやれた名前がつけられています。同じタテハチョウ科のオオムラサキは国蝶にも指定されていますし、最近では各地で人工的に放蝶されたりして、話題にのぼり、ことさら蝶に関心を抱かない方でも、名前はよく耳にされたことがあるかと思えます。それにひきかえ、ここに登場するコムラサキは、同じ環境で生活し、同じように目にふれるわりには、あまりパツとしたところがなく王者オオムラサキの前には、いまいちとつ迫力不足といったところで、少々気の毒なところが、ないでもありません。





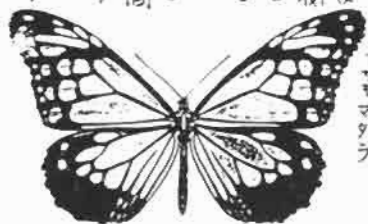
オムラサキ  
木のしほとすう  
治和期6~8月  
幼虫はエノキにつき  
日本の国チヨウ



コムラサキ  
タテハヨウ科  
木のしほとすう  
見の角度により色が変わる  
幼虫はヤナギ類につく  
治和期6~8月

さかのほつて行くと次第に姿を消して両岸が切り立った狭  
い谷あい、林へと移って行くわけですが、そこでは露出し  
た岩や、わずかな石の隙間に根を下ろしたギブシやフワ  
ザクラなどのかん木に混ざって、葉裏が白っぽくてとことな  
く弱々しい感じを受ける  
カシの木が目につくよう  
になります。これはウラ  
ジロガシといって、先程ふ  
れたスタジイやアラカシ  
よりも、もっと栄養分の  
少ない、厳しい立地条件の  
場所にも順応するカ  
シを持つ種類で、その生活  
の場も大変広い範囲にま  
で及び、中川根町の照葉樹  
林の上限とされる標高ハロ  
ロM付近においても、アカ  
ガシと併に点々と生育  
するウラジロガシを見る  
ことができます。最も簡  
単に見られる場所は、ウ  
ツドハウス尾呂久保のら  
大札山方面へ林道を四

コムラサキは、奄美諸島を除いた日本各地に広く分布しています  
が、時として表面が普通のものより一段と濃く強く美しい発色  
を示すことから専門家の間では特にクロコムラサキと呼ばれて  
いる一異位種の存在が知られています。このクロコムラサキの  
出現率が全国でも最も高いとされているのが、この中川根町の  
周辺なのであります。前のオムラサキに比べますと姿の上  
では一歩ゆずるところはありますが、このように、大変貴重  
なクロコムラサキの多産地であるというところは、中川根町の  
蝶相を語る上で特に触れておかなければならない重要な  
ポイントであります。この蝶の食樹となつてゐるヤナギも  
洪水や護岸工事の影響によって徐々に少なくなつてつありま  
すので、苗木の植樹など、出来る事からこれらの保護を固  
めて行くことが必要だ段階にきてゐると思われまふ。  
川幅の広まった所に主に見られたヤナギ林も、こちらに川と  
さかのほつて行くと次第に姿を消して両岸が切り立った狭  
い谷あい、林へと移って行くわけですが、そこでは露出し  
た岩や、わずかな石の隙間に根を下ろしたギブシやフワ  
ザクラなどのかん木に混ざって、葉裏が白っぽくてとことな  
く弱々しい感じを受ける  
カシの木が目につくよう  
になります。これはウラ  
ジロガシといって、先程ふ  
れたスタジイやアラカシ  
よりも、もっと栄養分の  
少ない、厳しい立地条件の  
場所にも順応するカ  
シを持つ種類で、その生活  
の場も大変広い範囲にま  
で及び、中川根町の照葉樹  
林の上限とされる標高ハロ  
ロM付近においても、アカ  
ガシと併に点々と生育  
するウラジロガシを見る  
ことができます。最も簡  
単に見られる場所は、ウ  
ツドハウス尾呂久保のら  
大札山方面へ林道を四



この林道沿いに蕎麦粒山方面へと車を走らせま  
す。標高を増すにつれて  
それまで見られたカシやシイ、モミに変わつて、フナやナカカマド  
ミズナラといった紅葉の素晴らしい木々たちの林へと景観が  
移つていきます。これらの林は冬の寒さや乾燥から身を守る  
ために葉を落とすことから夏緑樹林、または温帯林などと呼  
ばれていて、中川根町では標高ハロロMより一六〇M付近にの  
けて発達する森林で、町内最高峰の蕎麦粒山の山頂もこ  
の範囲の中に入ります。  
また大札山の蕎麦粒山にかけてはツツジの仲間のアカヤ  
シオやシロヤシオ、ミツバツツジなどが見られ、けむるよう  
な春の霖雨の中に、ひっそりと咲く姿は非常に印象的で、  
訪れる人達の目を集めてきてくれます。  
標高一四〇Mに位置する山犬段の周辺は、その森林を構  
成する樹木は勿論のことですが、そこに発生する昆虫などに  
も、この地独特のものがあり、果内外からも多くの専  
門家や学生が調査、研究に訪れてます。  
これから少し、その中味をのぞいてみるために、まず  
山犬段から蕎麦粒山へのハイキングコースを歩いてみるこ  
とにしましょう。深く茂るササを切り開いて造られた

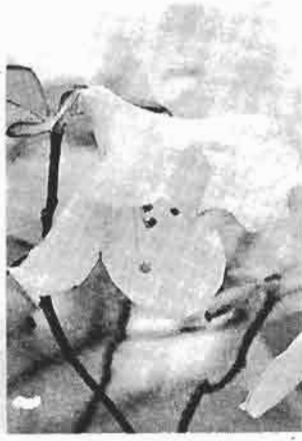
五KM登ったあたりですの  
で機会がありましたら、  
観察してみたい。  
中川根町の基幹産業で  
あるお茶もツバキ科に属  
する照葉樹の仲間ですの  
で、これ以上標高が上がる  
と栽培不可能ということ  
になります。ここへ来る  
途中の尾呂久保のまわり  
には、立派な茶園が見ら  
れますが、そこからもう  
少し登ったあたりが、お  
茶の栽培適地の上限とい  
うことになります。



次ページへ



赤ヤシオ



白ヤシオ

コースのまわりには、灰白色の肌をした大木や、白樺のように幹の皮がはがれた大木が、まっ先に目に入ってくると思えます。ブナとダケカンバです。さらに林を進むと先にも小れたようなミスナラとかヒメシヤラ、ハウチワクエデなどといった紅葉の素晴らしい木々達の間に、モミに似たような木がちうほう混ざってきますが、これは、ウラジロモミやトウヒといった針葉樹の仲間です。主に温帯林から亜高山帯にかけて見られる種類です。

ここにきて来たトウヒについてですが、このコース周辺ではウラジロモミに比べると、その出現率は大変少なくて、本来はシラベやオオシラヒツと共に亜高山帯の針葉樹林帯を主な生活圏としていた樹木ですので、ここではトウヒだけが優占しているといった林を見ることはできません。ウラジロモミの特性については、後で少しふれてみます。

ここは霧がかかること、夏でも肌寒い感じをおぼえる程で、そんな中で、ここからともなく聞こえてくるジュウイチやコルリのさえずりを耳にしながら、ウラジロモミやブナの大木の前に立つと、大なる原始の森の山聖にお合ったような神秘的な雰囲気かたよってまいります。

また秋には、まっ赤に熟したナナカマドやムシカリなどの実をいそがしそうにいばんでいる、たくさんの野鳥の姿を見る、ことができます。

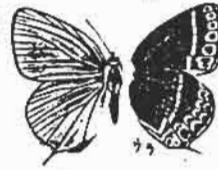
深いササの中を山頂へと誘うこのハイキングコースを取り囲んでいる林は、先程もふれたように温帯林の範囲の中に入りますが、その中でも特に標高の高い所に発達する森林で、また、この林を代表する樹種がブナである、ことから、ブナ帯などとも呼ばれています。



ジウザンミドリシジミ



メスアカミドリシジミ



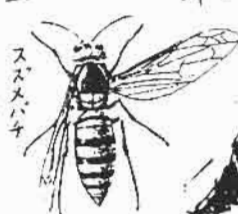
ウラフロシジミ



アオカナン



オオラコガ



スズメバチ



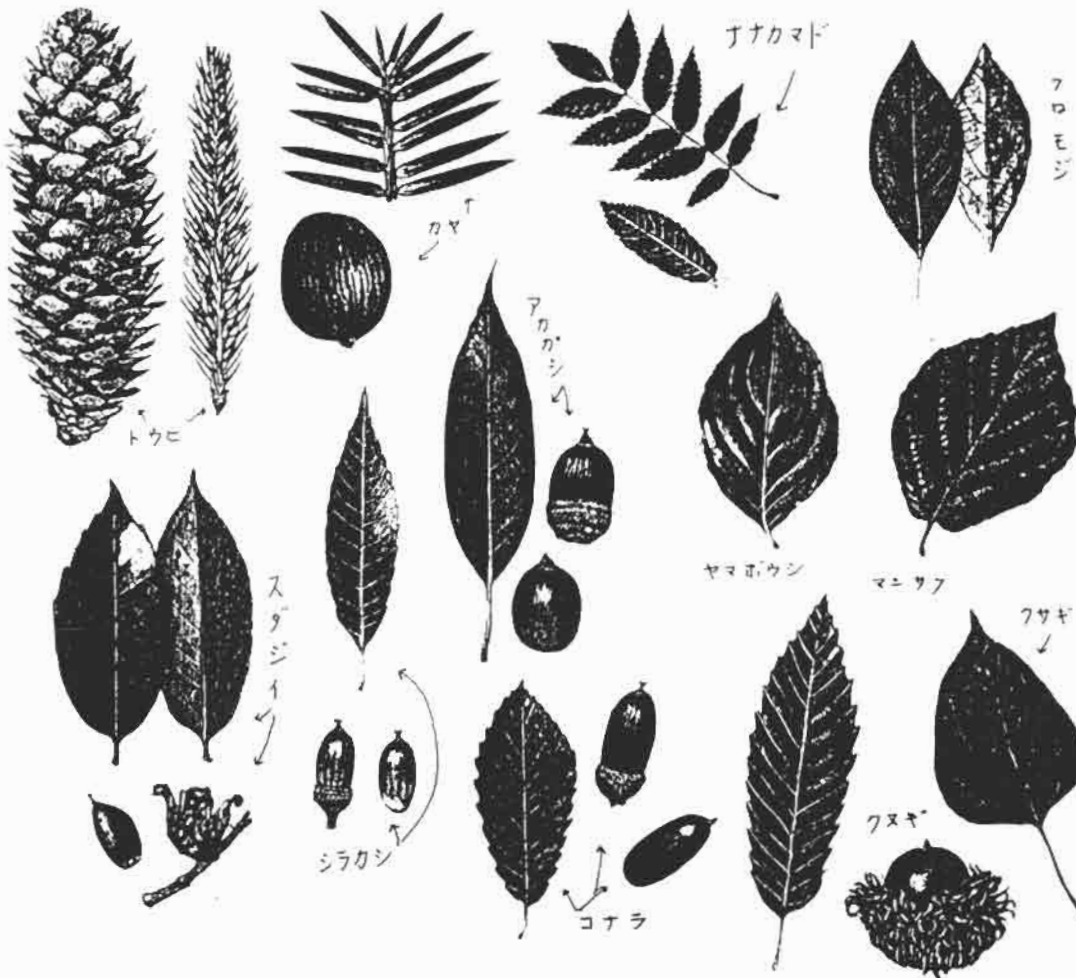
木のワロのスズメバチの巣

同じブナ帯でも太平洋側と日本海側によって、これらの林を構成している樹木や林床に生育しているササ類には、大きな生活型のちがいが見られ、その最も大きな原因としては、冬季における日本海側の多雪と太平洋側の乾燥した冬季節風といった気候による影響をあげることが出来ます。

具体的事例を上げてみます。すと、蕎麦粒山周辺のブナ林の特徴は、日本海側のブナ林では見ることのできなウラジロモミという針葉樹が混生していることや、林床に見られるササ類(スタケヤミヤコザサ)などで、これらのササの成長点(冬芽)は、冬の乾燥した冬季節風に直接さらされ、そのため、地表面より下方に位置し、適度な湿り気と温度が得られやすいような構造になっています。またスタケケについては、地上部の稈節に芽を持ちますが、それらはきわめて堅牢な稈鞘(サヤ)によって保護されています。これは、積雪によって保護されることのできる日本海側のササ類(チシマササ)にはみられない特徴の一つでもあります。

またこの森に生息する昆虫達の種類も非常に豊富で、カミキリムシなどの甲虫類や蝶に関する類多くの報告が知られています。特に蝶類では、大型シジミチョウの仲間、羽の表面がエメラルドグリーンに輝く大変美しい蝶(一般にゼフィルスと呼ばれている)の生息域になっていきます。中でも、ここで見られるアイノミドリシジミ、メスアカミドリシジミ、フジミドリシジミなどに代表されるこれらの蝶類は、その生息域が極度に限定されることや、また発生する成虫の個体数が少ないことなどから採集マニア垂涎の的となっています。六、七月の梅雨の晴れ間にここを訪れると、運のいい方は、木もれ日とあびた木の葉の上で、空石のような羽をいっばい広げてじっとしている森の





妖精に出合えるかも知れません。  
 このように多くの樹木によって構成された森林は、それと同じように数多くの動物や昆虫の生命を育んでいます。これからは、自然観察にとつて最適な季節になります。一冊の植物図鑑を片手に、野外に出かけてみませんか。まことに今までのとちがった新しい世界に、ふれることができるものと思えます。

中川根郵便局勤務 鈴木正文

# 中川根町

## 婦人学級は今

平成元年年度の活動



婦人の生涯学習の場として婦人学級がとり入れられて、もう何年になるでしょうか。ある時は受講希望者を募り、又ある時は生活学級部門も取り入れ、中川根町婦人の知識向上をはかってまいりました。数年前より、より多くの人々に学習の場をもつてもらうには、中川根町婦人会組織を活用して、婦人会員、即ち婦人学級生と言う事になりました。婦人会には、町内十五の支部があり（各地区ごと）主に支部を中心に活動しています。そして支部を束ねる、中川根町婦人会本部があり、会長は、地名の中原すま子さんがやっています。

婦人学級も、支部単位に年間四、五回の学習会が開かれます。又婦人学級生の指導は、中川根町教育委員会、社会教育指導の先生があたつて下さいます。下泉の塚畑和巳先生は、三年間、婦人学級の指導をしていただきました。特に、表記テーマ、隣人との融れ合いを大切にしよう、三世代交流を通して、では、ご自身講師として十五地区を全て回られ、社会教育の啓蒙、と言う事で、先生の様々な体験やお考えにならわれている事を話して下さいます。三月中旬には、平成元年年度学習反省会も行なわれ、各支部代表による意見交換がなされ、次年度への新たな出発点ともなりました。

三月末を持ちまして、社会教育指導員を退任された、塚畑先生より、以下のご挨拶が届けられました。中川根町の実感がわかると思っています。全て載せさせていただきます。



花咲き鳥歌う九十の春光に身も心も生気が湧く思いのする季節となりました。総会（婦人会総会三月二十五日）の日には出席し一年間のご努力にお礼申し上げようと思つておりました。私としては、欠席し、皆様方には申し訳なく思つて共に私としては、慚愧に耐えない気持ち一杯です。どうぞお許しくたさい。  
 今更と思われようが、総会に出席し、お礼申し上げようと思つて、いたことを次に述べさせていただきます。



本日ここに多くの成果を残し、無事かつ盛大に総会が開催されますことと心よりお慶び申し上げます。と共に本日お招きいただきまして大変光栄に存じております。ここに立たせていただき皆様方にお礼とお願いを申し上げます。

その一つめは、昭和六十三年三月八日、中川根町教育委員会から、「住みよい町づくりをめぐる社会教育の在り方について」の答申が出されました。この答申を町民の方々に伝達していかなくては、絵に描いた餅と化すと思いたので、「婦人学級」の中に伝達する機会を作っていた。また、「たいし」とお願いいたしましたところ、十五支部で快く受け入れていただき、学習報告にもありますように無事終了することができました。夜分しかもお疲れのところ出席いただき、極めて熱心に聴講していただき、誠にありがとうございました。私も所期の願いが達成でき、大変嬉しく存じております。

二つめは、答申の中の重点目標の一つである、「隣人との触れ合いを大切にし、よい学習テーマを取り上げていただき、三世代交流を通して」というサブテーマを設け、各支部それぞれに、暗中模索しながら、その実現に努めていただき、大きな成果を収めていただきました。こゝに、こゝにまた厚く御礼申し上げます。

報告書の中に、そして、言外に潤いと、しみじみとした温みが伝わってきました。そして、地域の方々に、徐々に徐々に浸透しつつあることが感じられ、これはすばらしい実践活動であることに改めて気付きました。

それは、私たちが町中川根には、昭和四十年十二月三十一日、一〇、二八五人の方が住んでおりました。その時の世帯数は、二、四四五戸、一世帯当り平均家族数は、五、〇三人でした。それが、昭和六十年十二月三十一日には、人口七、九〇九人、世帯数は、二、〇二二戸、平均家族数は、三、九五人となりました。平成二年三月一日、人口は、七、四八五人、世帯数二、九七九戸、平均家族数は、三、七八人です。

このことから考えられることは、昭和四十年と現在（平成二年三月一日）を比較してみますと、世帯数は、三〇%の減に、人口は、二七%の減になっており、このことは、一人暮らしの老人世帯、老人夫婦のみの世帯が多くなってきていることを示しています。

また、人口高齢化は二〇%に達し、過疎化、高齢化の現象は急速に進みつつあり、深刻な問題となつてきていると思われまふ。

これは、都市部には見られない、地域のかかえる問題であり、こうした動向の中にあつて、強力な組織を有する（会員二二八名）

平成元年度 婦人学級実施報告

①数字は回数 ④⑤は垣田先生の講話

- 藤川支部 (140名) ①親子料理教室 ②三世代交流映画会 ③作り作り ④
- 水川 (20名) ①指圧・マッサージ ②三世代交流映画会とふたのしみ会 ③料理講習会 ④
- 上長尾 (102名) ①講話「こぼれについて」 ②三世代交流映画会 ③おせち料理実習 ④三世代調理実習 ⑤
- 高郷 (112名) ①袋作り(おいらんおぼろんへ) ②映画会 ③生け花教室 ④
- 八中 (16名) ①三世代交流体カブクリ ②料理講習会 ③
- 梅高 (94名) ①三世代交流映画会 ②斗茶会 ③生け花教室 ④
- 下長尾 (69名) ①コキブリ団子作り ②三世代交流映画会 ③体カブクリ(エプロン) ④
- 瀬平 (41名) ①コキブリ団子作り ②三世代交流映画会 ③わらべ歌会(三世代) ④斗茶会 ⑤
- 久保尾 (70名) ①コキブリ団子作り ②着付け教室 ③料理講習会 ④
- 久野脇 (61名) ①コキブリ団子作り ②老人会ヒートボール ③おせち料理 ④
- 地名 (82名) ①童謡を歌う会 (三世代交流) ②三世代交流の映画会 ③ステップゴルフ ④
- 下泉 (56名) ①コキブリ団子作り ②三世代交流映画会 ③調理教室 ④
- 地町河内 (15名) ①マッサージ講習 ②お正月料理ヒキ芸 ③ステップゴルフ・トリム運動 ④ (二世代交流)
- 田野口 (47名) ①コキブリ団子作り ②お正月の生け花 ③ステップゴルフ大会 ④ (三世代交流)
- 徳山 (120名) ①体カブクリ ②お正月の生け花 ③成人病について ④(映画会)

婦人会が、ここに目を付け、三世代交流に取り組んで、いたただけることは、中川根町のこゝ近い将来を見通したすばらしい実践活動であると思ひます。

三十年前、四十年前に数えますと、食べる物も十分、着る物も十分、住いも十分、なのですが、なかなか満足することができません。空腹を満たす特効薬は食事です。心が満たす特効薬は一人一人の心の持ちよう、考之方にあるのではないのでしょうか。隣人とのふれ合いを大切に、考之方にあるのではありませんか。に糧を与えてくれるこの実践活動を点から線へ、線から面へと発展させ、五年後、十年後には、すばらしい花を咲かせていただきたく、ここに念願する次第です。

終わりになりましたが、中川根町婦人会の益々の発展と、二二八名の会員各位のご健勝と、祈念申し上げます。お礼とお願いのことは、たいします。

# 春を待つふる里の野辺に想う

二月はじめ実家の法事のたの故里に帰った。  
 義姉と甥が悲願にも似た苦勞の積み重ねでの催しだった。感謝の心を胸にお詣りさせてもらった。実兄十二年、母十三年、先祖代々の諸精霊。人間は、この世を去ると、三度の行法があるのだぞうだ。

一回目は四十九日であり、二回目は百ヶ日、三回目は一周忌だぞうだ。それを一つが無く済ますのは、生きて居る者が供養し、三宝の回向をする事が大切と或る僧に伺った事がある。

供養の席上、智満寺の御住職が法話の中で、怠りがちな、先祖に対する感謝の気持ちを、こうして部落の人々と共に親類相寄りて、行なえる事はすばらしいと誉めて下さった。

まさにそのとおりだと思ふ。と同時に、私には、先祖が眠るふる里があり、いつでも温く迎えてくれる実家がある事への喜びが強く胸をうった。

献盃のあとの談笑の折、子供達が町を出ている家の意外に多い事に驚かされた。娘達や次男坊なら仕方ない事ながら、長男までも他の町で生活して居ると云う話には、何故にと、私には言葉も無い。

あと十年も過ぎ親達がどうにか、なつたりどうするのだろうか。家は廃屋となり、主産業のお茶は、墓守りは誰がするのだろうか。ふる里を出た人々にとって、ふる里も無くなる心配は無いのでしようか。自治体にとっても、重大問題だと思ひます。

ふる里通信第十四号の『こんなふる里にしたい』ふる里づくり住民意識調査を、もう一度読み直して見た。行政に対する期待が、現過さる様に感じ、意欲的な意見が少くない様に思ひます。

問十二、十六は相当な予算が必要に思ひますが、地方交付金や開発資金をあて込んでのお考えでしようか。今全国平均では、自治体の予算充足率、30%、国及び県の補助率、70%と聞いております。ふる里へ帰るために、道路は良く整備されて来たなあ

と実感します。山道までも舗装されて、ひとびとに環境が整備されても過疎で、人不足では、一村一品運動が始まった、ふる里創生も発想の転換期に来たのでは無いでしょうか。

この上は、豊かな心作りに依る町おこしが必要の様に思ひます。

過日旧友と話す機会がありました。彼が申すのに、「松下君ふる里のよい折は何だろうか。」と、唐突の問いに、「さあ」と言つて言葉に窮した。彼は「やっぱりさあ」と言つて笑つた。しばらくして、「月並に言えば豊かな自然と人情だろうが、住年の様を暮らしてゆとりが無くなり、お互いギスギスした世の中になつた様な気がする」と申したら、たしかにそんな傾向が目立つとも知れない。最近の様は、変革の激しい時には、いた一方の無い事

今から五百数十年前の室町中期の臨濟宗の僧一休和尚は道歌で金偏に戈を重ねて錢と読む

字を見てさこれ 今の世の中

と伝えて居る。人の世の金に対する大切さと恐ろしさを言い表した名句であると思ふ。

東京都渋谷区在住 松下金五(下泉出身)

## ふるさとづくり住民意識調査より

問12、中川根町には豊かな自然が残っていますか。あなたは今後どうしようと考へますか。

・開発して工場や住宅を増やすべきだ 100人

・自然も大切だが、どうかと言えは開発に重点をおくべきだ 220人

・開発も必要だが、どちらかと言えは自然を守るべきだ 101人

・自然を守ることに重点をおくべきだ 37人

問13、あなたは中川根町の最も重要な課題は何だと思ひますか。

① 道路の整備 150人

② 観光開発 65人

③ 職場を増やす 83人

④ 工場誘致 56人

問14、あなたは中川根町の最も重要な課題は何だと思ひますか。

① 道路、交通 165人

② 人口、高齢化問題 125人

③ 産業振興、雇用確保 123人

④ 後継者対策 59人

⑤ 生活環境整備 35人

次ページへ続く



# 木津先生を囲んでの 同年会(十五年会)

木津文彦先生を囲んで十五年会(同年会)を浜松でやりました。私達は小学校(当時は国民学校)六年生の時に終戦になりました。それまでの単時教育から一変して、民主教育へと変り、先生も生徒も戸惑いながら勉強でした。その中で旧制中学へ進んだ人、昔の高専科一年でおりた人、新制中学になり二年で卒業した人、三年で卒業した人、疎開して来た人、引き揚げて来た人……、すい分様々な形で義務教育を終えました。

同窓会というには大変複雑ですので、免に角昭和十五年に小学校へ入学した人、中川根にゆかりの有る人なら誰でも参加出来る会として十五年会(同年会)と名付けました。

去る二月十七日・十八日浜松方面在住者が幹事となり、浜松にいらっしゃる恩師木津先生をお招きして、館山寺の民宿で同年会を開催致しました。

あんなに降り続いた雨もうその様に晴れあがった十七日、浜松駅四時集合、川根から、静岡から、東京から続々と集まって下さり、感激の対面でした。夕暮れの街をバスにて一路館山寺へ。民宿では、直行組が待つて居て下さり、木津先生も御到着になり、久之の再会にもうワイワイ、ガヤガヤ、川根の郷土土産も出て、時間も忘れ、おしゃべりに花が咲きました。

翌十八日も暖か。最高のお天気。遠鉄定期観光バスコースで、竜ヶ岩洞で二億五千万年間の鐘乳石の神秘にふれ、奥山方広寺参観、山肌には並ぶ五百羅漢に心なごみ、山の家にてにぎやかなジンギスカン昼食。午後は龍澤寺にて心静めてお抹茶を一期戴き、左甚五郎作の驚張りの廊下を踏み、龍の彫刻を見、有名な小塚遠州作の枯山水の庭園を眺め、何か心洗われる清々しい気持ちにて帰路に着きました。

二時十分定刻通り浜松駅に到着、別れ難く、名残り惜しみつつ次の会を約束して解散致しました。遥々と雨続きの天候で大変心配致しましたが、遠路はるばる御出席下さった皆様と恵まれたお天気とで、本当に楽しい会となりました。

次のお会には一層多数の御出席をお願い致します。

浜松市在住 宮澤 綾子(旧姓 神原)

問15. 道路の現状：整備についてどう考えますか。

- 道路の整備は必要不可欠、積極的に進めるべきだ。 470人
- 昔と比べれば随分改善されたので、もうよい。他に投資すべきだ。 47人
- 道路の整備が進むと、便利になる反面、悪影響も出て来るので、もうよいのではない。 21人
- 山間地の道路は、更なる投資がかかる割に、整備が進まない。他の分野に投資すべきだ。 19人



# 川根索道 その2

川根索道につきまきしては、第五号で、地名の思い出話集より中原すま子さんが寄稿して下さいました。旧徳山村側の山中に現在のスキーリフトを大型にした林道索道搬器が動いていたと言われます。廃業されてから早五十年、当時を思い出ものは、地名駅を中心に二つの保安トンネルぐらいいなくなってしまいました。一部五号と重複する所もあるかも知れませんが、地名より北部を中心に統編として索道の事をお知らせしたいと思ひます。今回は田野口駅に勤務されていた鈴木藤一さん(81才)和田四郎さん(79才)に貴重なお話を伺うことが出来ました。

明治以来、川根地方の交通は大井川を利用した舟や道路(川の付近の山道)が使われたし、近くて遠い存在であった馬田、金谷との交流も次第に減っていきまされたが、道も悪く舟便は天候に左右されやすく、不安定なものだったそうです。そこで、藤枝の商人達が、索道をつかって、川根の産物(お茶、榎茸、まゆ、こんぱく、木炭)などを買い入れ、生活物資を売ることを考えたと言われています。

川根索道株式会社といわれ社長は百留達雄氏、瀬戸、谷村滝沢駅を起点に伊久美村中平・上河内・桑の山(現川根町)を経て、地名駅まで大正十五年に開通しました。

地名駅より奥は昭和四年に建設し、その五年四月一日より営業。十二年六月に終業しています。目的は産物運搬もありましたが、大井川支流の寸又川に第二富士電力(湯山・大間発電所)をつくる為の建設資材を運ぶための急ピッチでつくられました。

- ↓地名(駅)→塩郷(屋田所)→横郷(起動所)→下泉(駅)→
- ↓下泉原(屋田所)→田野口(駅)→塩の内(駅)徳山沢脇→青部(起動所)
- ↓田野口(屋田所)→前山(屋田所)上岸→小長井(駅)→奥沢間(駅終点)
- ※屋田所はワイヤーロープを曲げる所(駅が直線をつなげない所)
- ※起動所は40馬力のモーターを設置していた。
- ※駅にはワイヤーロープを引きこめる緊張所もあった。

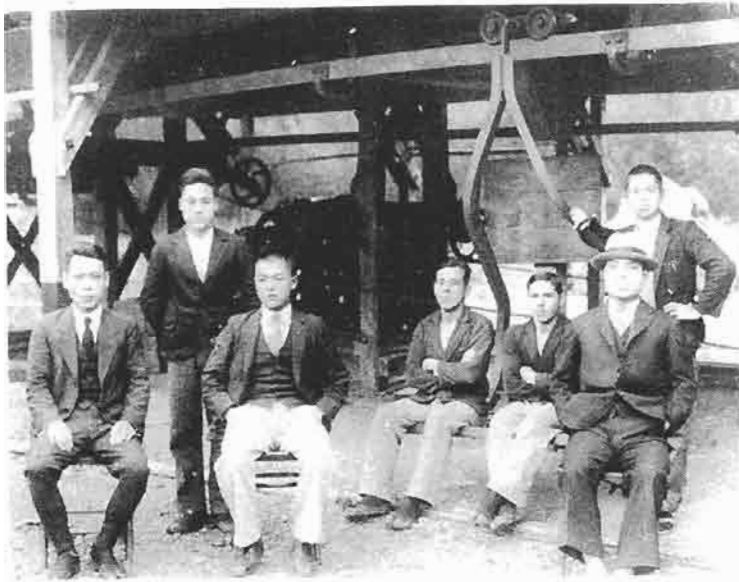


索道は電力で動かされ、電気は藤枝からきたと言われます。動かす仕組みは、駅と駅とが、一区間のワイヤーでつながれ、各々が回っていたとの事で、田野口から塩の内、又田野口から下泉は約三分の時間を要したと言われます。

当時この様な施設は全国各地にあつたらしく、駅内も主線、引き込み線と、合理的につくられていました。駅には、駅長、駅員、四、五名で運営されていきました。搬器は三分おきに入ってくるので、通過させるもの。駅止めにするもの、荷物の積み込み、発車と、7、8分おき、大変な仕事でした。それにも増して鈴木さんは、油さしという仕事を付けていて、35m、40mの鉄柱に登って、鉄柱とワイヤーの通っている所へ油をさすに行っていたという事です。鉄柱は谷に設置されたものは高く、山頂付近のは低かったと言いう事で、比較的ならぬ山には

駅には、駅長、駅員、四、五名で運営されていきました。搬器は三分おきに入ってくるので、通過させるもの。駅止めにするもの、荷物の積み込み、発車と、7、8分おき、大変な仕事でした。それにも増して鈴木さんは、油さしという仕事を付けていて、35m、40mの鉄柱に登って、鉄柱とワイヤーの通っている所へ油をさすに行っていたという事です。鉄柱は谷に設置されたものは高く、山頂付近のは低かったと言いう事で、比較的ならぬ山には





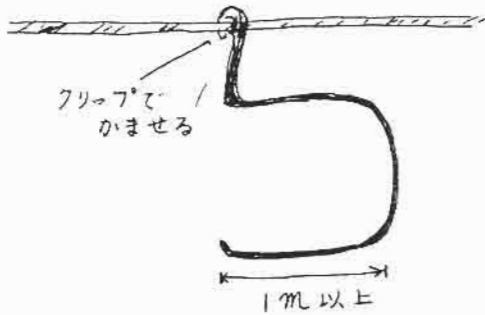
搬器に束って油さしに行く人もいたと言われ大変危険な事をしてたり命を落とした人もいたと言っています。鈴木さんは身もかるく体も小さかったそうですが、田野口駅から北側の吹き出しという場所には35m、旧徳山村役場裏山には40mの鉄柱があり決して搬器に束って油さしには行かない方がいいです。

搬器一器にセメント50kg×4袋、米60kg×3袋、180kg位の荷物が積み込まれ雨の日にはカッパがかけられました。又風に弱く風によって搬器が揺れて積荷が落ちてしまう事もあったそうです。

⑤

田野口から上長尾に支線が張られました。田野口駅は鈴木利郎さんの北側の所に施設されておりました。又現小野田俊夫さん付近から上長尾(実際水川地帯)のはすれのオオホツに大井川を渡してケールが施のれ高畑伊平さんが中心となって索道がつくられました。中徳橋(吊り橋)が渡されたのが昭和十一年と言います。上長尾、田野口の間に渡舟がなく、やはり近くで遠い存在だったようです。

発動機によって動かされていて、機械の音がけたたましかったと言います。



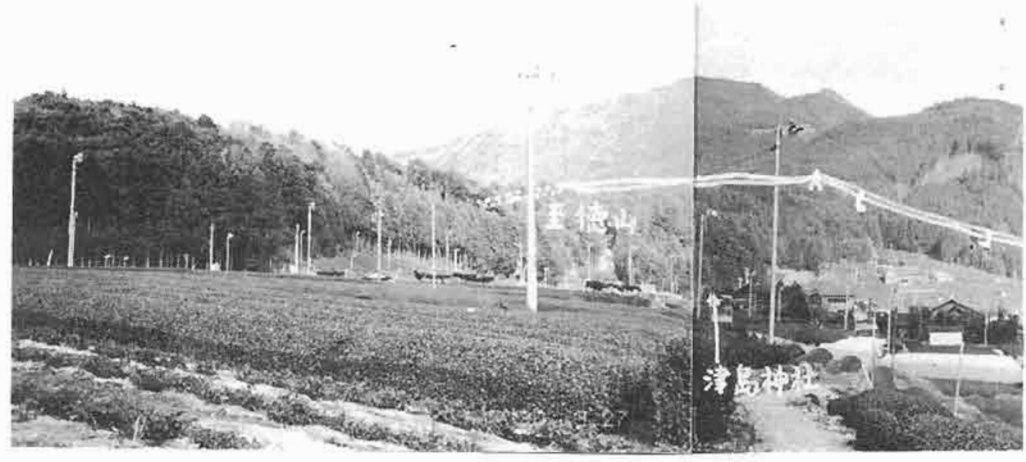
⑥

川根索道は当初商業的運送目的で始められた事は言うまでもありませんが、大井川鉄道開設の為の資材などもかなり運ばれたのではないかと言います。

先にもお話ししましたが、かつて奥沢間から現寸又峽温泉としてにぎわっていた大間方面に軌道が敷かれ、現在の井川線(大井川鉄道)よりも線路の幅が狭いミニ機関車が発電所やタムの資材を運ぶ為や、国有林の材木を搬出の為に作動していました。二十数年前何回か乗った事があります。トンネルと鉄橋が多い危険な所でした。しかし軌道が出来たのは意外に早く、昭和八年には完成したと言われます。索道によって資材運搬が大がかりに行なわれた事は確かだと思えます。この軌道は大井川鉄道のものではなく、線路ですが、現在も運行され、奥大井の観光には欠かせない大井川鉄道井川線も千頭を起点に、次第に奥へ線路が伸びて行っただけです。

⑦

大井川鉄道が昭和六年開通されても、以後六年余、平行して索道は稼働しており、索道が物資輸送機能にすぐれていた事と比較的消費電力が少なかったのではなかったか？と言います。考えられます。それと、寸又川方面の発電所建設が一時終了するも考えられると思います。やがて川根地方の交通、物資輸送手段は全て大井川鉄道に委ねられ、鉄道全盛の時代をむかえます。そして今日、ふる里への交通手段は鉄道より自動車が多くなり、意外と起点終点が最近距離で結ばれており、当時このルートと考へた、索道建設に着手した皆さんの心意気に頭が下がります。





### 定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 千円 150円  
皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回(季刊誌)の発行を予定しております。

今回で購読期間の切れる方に郵便振替用紙を同封致しますから引き続き、ご購読をお願いします。

年間予約 600円のご送金をおすすめします。2・3年分お送りいただいても結構ですが10年分という気分的に負担になります。

購読期間が切れて半年以上御連絡が無い場合は勝手ながら中止とさせていただきます。

※住所変更のおりもご連絡を願えれば幸いです。

※問い合わせ先 TEL 0547-56-0015  
小沢節子

※払込通知票(郵便振替)  
口座番号 名古屋<7>-81556  
加入者名 中川根ふる里通信 係



鈴木正文さんが寄稿下さいました。中川根の自然環境について、いかでしたか。お仕事の休みの日は、ほとんど自然観察研究をされている様子。その向学心、ご努力に頭が下がります。

地球の歴史を一年間に例えるならば、人間の歴史は、ほんの数分の一か値しないと言います。万物の霊長として地球の全てを、独占、管理してもよいのかと改めて考えさせられます。自然を開発することは、そ

十年余り前だったので、中川根町を杏の里にしようと、町より幼木が各戸へ配られました。順調に育っているものは若樹となり、ピンクの美しい花が庭先に畑に見られるようになりました。杏の実は早いと青梅のごとくすぼく熟れると味も悪くなりますが、どうして食べるのでしょうか。

茶園の新芽も伸び、お茶摘みも例年より十日ほど早いと予想され、四月中に始まりそうです。ここ二、三日(十五日、十八日)気温が低く、霜害、冷害にならないことを祈っております。

北国の春は、梅も桜も一度に咲いて、とても美しいと言われます。今年は何故か、中川根にも二、三度雪が降り、乾期(一、二月)に雨が続き、桜の開花も考えられないほど早く、例年桃、すもも、梨と少しずつ、開花がずれますが、桜と同時に咲きました。

に生息する幾多の生物を犠牲にしているのです。

巻のうわさですと、中川根の遠州側の背骨と言え、久保屋、原山の山中にゴルフ場が計画されている様子が聞きます。

ゴルフ場は目に見えない様子を、芝の手入れの行きといた樹木、池、花壇など造られた美しい、すばらしい施設です。

しかし、芝は緑のコンクリートと言われるほど、保水能力がありません。又農薬規制が無い為、芝や樹木に多量の農薬が施されている事は事実で、全国各地の問題になっております。全国に猛威を振るっているマツクイ虫もゴルフ場にはすむ場所が無い、松も青々としている事も養果効果に思えてなりません。

道路開設で、周囲の生物が土地が復元されるまで何十年と言う年月を要します。まして何処の山頂付近の土地を樹木を切り開き、整理されたら、どの様にしようとするのでしょうか。

中川根の山林は手入れがいささか、他の町村にくらべても自慢出来るものとなっております。どうか目先のものに心を奪われる事無く、豊かな山林を後世に残して行く事も大切な事だと思っております。巻のうわさのみに依る事を祈ってやみません。

ふる里通信 五年目に入ります。十六号より八口口即発刊となり、皆様の「けけけ」の言葉、ご支援本當にうれしく、次回号への活力になります。今後は寄稿、ご意見、どうぞお寄せ下さい。お待ちしております。